

日本陸上競技連盟からのお知らせ

目次

■活動報告

評議員会・理事会報告

2023年6月4日(日)に第83回理事会、2023年6月23日(金)に定時評議員会、2023年6月26日(月)に第84回理事会をそれぞれ開催いたしました。

2022年度登録者数について

2022年度の登録者数について表に示しました。

日本陸連への会員登録は自己記録に関係なく、どなたでも登録することができます。

※一部例外があります。詳細については登録会員規程を参照。

https://www.jaaf.or.jp/pdf/about/guidelines/03_member.pdf?230403

キッズデカスロンチャレンジ実施報告

今年度は、4月から6月までの間に、日本グランプリシリーズ(3大会)、セイコーゴールデングランプリ陸上2023横浜、日本選手権大会の5会場で実施することができましたので、報告いたします

■大会観戦ガイド

令和5年度全国高等学校総合体育大会 陸上競技大会 秩父宮賜杯第76回全国高等学校陸上競技対校選手権大会

第58回全国高等学校定時制通信制陸上競技大会

第50回全日本中学校陸上競技選手権大会

■事務局からのお知らせ

パリ2024オリンピック競技大会 マラソン日本代表選手選考競技会 マラソングランドチャンピオンシップファイナルチャレンジ設定記録決定

迷惑撮影対策活動を日本選手権で実施!～アスリートが安心して競技に取り組める環境づくりを目指して～

information

- ・個人情報の共同利用について

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/16577/>



- ・日本陸連登録料の設定について

<https://www.jaaf.or.jp/about/fee/>



- ・WRK対象競技会／広告規程について

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/technical/>



- ・陸上競技場、長距離競走路の認定について

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/shisetsu/>



- ・代表選手派遣大会選考要項 2023年度

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/15943/>



- ・代表選手派遣大会選考要項 2024年度

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/16334/>



- ・代表選手派遣大会選考要項 2025年度

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/17671/>



- ・アンチドーピング／鉄剤注射の防止

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/medical/>



- ・【ブダベスト世界選手権】

エントリースタンダード

https://www.jaaf.or.jp/files/upload/202208/24_100216.pdf



日本陸上競技連盟 評議員・役員

本連盟は、2023年6月23日、6月12日開催の評議員選定委員会により選任された評議員において評議員会を開き、評議員会議長及び評議員会副議長を評議員の互選により選び、同日から2027年開催の定時評議員会の終結の時までの、新評議員体制を決めた。

また、6月26日、6月23日開催の定時評議員会により選任された理事及び監事において第84回理事会を開き、会長、副会長、専務理事及び常務理事を理事の互選により選び、同日から2025年開催の定時評議員会の終結の時までの、新役員体制を決めた。

【評議員】 任期：2027年開催の定時評議員会の終結の時まで

評議員会議長	大田 弘子					
評議員会副議長	竹内 章					
評議員	三浦 武彦	半田 昌一	平塚 和則	南部 朗	新田 明彦	
	串間 敦郎	肥塚 雅博	工藤 洋治	中嶋 誠次	伊藤 静夫	
	繁田 進	瀬古 利彦	高野 進	高橋 尚子	前島 伸行	
	山澤 文裕	山本 浩				

【役員】 任期：2025年開催の定時評議員会の終結の時まで

会長	尾縣 貢					
副会長	有森 裕子	風間 明	室城 信之			
専務理事	田崎 博道					
常務理事	坂本 修一	内山 了治	清水 真	來田 享子	山崎 一彦	
理事	小野寺理香	山崎 孝一	長 房江	金澤 健敏	増田 明美	
	山田 学	中村 隆代	田川さなえ	宮永 正俊	木村 文子	
	難波 康夫	青木 哲也	吉浦 知子	河野 匡	障子 恵	
	朝原 宣治	金川 宏美	杉田 正明	田辺 陽子	室伏 由佳	
監事	小林 久美	細田 正典	松尾祐美子			

評議員会・理事会報告

第83回理事会

日時：2023年6月4日（日）

8時30分～10時39分

休憩 10時39分～10時47分

再開 10時47分～12時20分

場所：都シティ大阪天王寺

【議事内容】

理事総数30名中出席者20名にて、理事会の成立を鈴木事務局長が報告。尾縣会長が挨拶し、引き続き、議事進行に入る。

〈協議事項〉

1. 第12期事業報告・収支決算

風間専務理事より事業報告について、室城財務委員長より収支決算について、遠藤監事より監査報告について、それぞれ資料に基づき説明があり、ともに原案通り承認

された。

(資料1及び本連盟WEBサイト <https://www.jaaf.or.jp/pdf/about/rikuren/disclosure/12report.pdf>)

2. 第12期決算における収支相償の対応策

風間専務理事より資料に基づき説明があり、第12期決算における収支相償の対応策として、特定費用準備資金の国際競技会開催引当預金として、1億1,500万円を積み立てることが原案通り承認された。

3. パリ2024オリンピック競技大会

トラック&フィールド日本代表選手選考における編成方針および選考基準について

山崎強化委員長より資料に基づき説明があり、パリ2024オリンピック競技大会のトラック&フィールド種目日本代表選手選考における編成方針及び選考基準が原

案通り承認された。

(本連盟WEBサイトhttps://www.jaaf.or.jp/files/upload/202306/14_131434.pdf 参照)

4. 日本記録強化費の個別対応について

鈴木事務局長より資料に基づき説明があり、これまでオリンピック種目を対象として付与されてきた日本記録強化費について、男子・女子35km競歩のみオリンピックと世界選手権で実施される種目が異なることとなり、またオリンピックの実施種目決定の時期など、これまでのスケジュールとは異なる形となったため、2022年12月31日時点で35km競歩の最初の日本記録として認定された、次の2名を日本記録強化費の支給対象者とする事が原案通り承認された。

対象競技者は下記の通り。

35km競歩

- ・男子 川野 将虎 2:23:15 オレゴン世界選手権
- ・女子 園田 世玲奈 2:45:09 オレゴン世界選手権

5. 日本記録樹立に伴う日本記録報奨金の支給

鈴木事務局長より資料に基づき説明があり、日本記録を樹立した競技者に、2023年4月1日より、下記の通り日本記録報奨金を支給することが原案通り承認された。

◆日本記録報奨金額：100万円

※ リレーの場合は、出場した競技者に50万円を支給する。

◆条件

- (1) 日本記録報奨金の対象種目は、次の通りとする。
対象種目の変更は、専務理事の承認をもって決定する。
〈男子〉
100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、

10000m、110mハードル、400mハードル、3000m障害物、4×100mリレー、4×400mリレー、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、十種競技、マラソン、20km競歩、35km競歩

〈女子〉

100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、10000m、100mハードル、400mハードル、3000m障害物、4×100mリレー、4×400mリレー、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、七種競技、マラソン、20km競歩、35km競歩

〈男女混合〉

4×400mリレー

- (2) U20日本記録、U18日本記録、室内日本記録、U20室内日本記録及びU18日本室内日本記録は対象外とする。
- (3) 対象競技者は、日本記録樹立時に日本国籍を有する本連盟登録者とする。
- (4) 対象競技会は、公認競技会またはWRk対象競技会(海外の競技会含む)とする。
- (5) 同年度内に複数樹立した場合、都度、支給する。
- (6) 同一競技者が別種目で樹立した際にも、日本記録報奨金を支給する。
- (7) 同一競技者が同一競技会の同一種目で複数回日本記録を樹立した場合、日本記録報奨金は1回のみ支給する。
- (8) 競技会の同ラウンド開始時の日本記録を基準とする(補足も含めた承認された内容の全文は、本連盟WEBサイトhttps://www.jaaf.or.jp/files/upload/202306/14_112117.pdf 参照)。

【資料1】

公益財団法人日本陸上競技連盟
第12期 収支決算書(前期比)
(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	第11期	第12期	前期比
(1) 経常収益			
1. 基本財産運用収益	6,454,101	5,487,338	△ 966,763
2. 登録料受入収益	251,743,500	252,255,000	511,500
3. 加盟金受入収益	4,700,000	4,700,000	0
4. 受取寄付金	1,010,666	10,556,000	9,545,334
5. 受取委託金・助成金	182,461,147	239,524,293	57,063,146
6. 事業収益	1,292,334,934	1,165,098,122	△ 127,236,812
7. その他事業収益	28,390,977	32,788,241	4,397,264
8. 雑収益	4,091,538	6,324,429	2,232,891
経常収益計	1,771,186,863	1,716,733,423	△ 54,453,440
(2) 経常費用			
9. 事業費	1,280,867,301	1,480,252,627	199,385,326
10. 管理費	111,591,193	121,522,348	9,931,155
経常費用計	1,392,458,494	1,601,774,975	209,316,481
当期経常増減額	378,728,369	114,958,448	△ 263,769,921

6. 特定寄付金の募集について

平野事業部長より資料に基づき説明があり、中長距離種目へのWave light（ウェーブライト／電子ペーサー）導入のためのクラウドファンディングを実施することが原案通り承認された。

承認されたクラウドファンディング実施方法は下記の通り。

◆プロジェクトタイプ：寄付金控除型

（必要があれば寄付金控除証明書を発行）

◆期間：2023年6月上旬～7月下旬

◆目標金額：設定金額：300万円

（ネクストターゲット：500万円）

7月に開催するホクレンディスタンスチャレンジ2023からWave lightを導入。

7. 評議員会の開催

風間専務理事より資料に基づき説明があり、3月に開催した第82回理事会において承認されていた評議員会の開催について、場所の変更のみ協議し、原案通り承認された。

〈報告事項〉

1. ブタペスト2023世界陸上競技選手権大会 競歩日本代表選手

山崎強化委員長より資料に基づき、男子20km競歩には山西利和、池田向希、高橋英輝、古賀友太の4選手、男子35km競歩には、川野将虎、野田明宏、丸尾知司の3選手、女子20km競歩には藤井菜々子、女子35km競歩には岡田久美子、園田世玲奈の2選手をブタペスト2023世界陸上競技選手権大会競歩日本代表選手とすることが報告された。

その他、評議員選定委員会に推薦する次期評議員候補者の選任、定時評議員会に推薦する次期役員候補者の選任の協議等を行い、原案通り承認された。

定時評議員会

日時：2023年6月23日（金）

13時9分～15時45分

場所：JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 3階
会議室8

【議事内容】

評議員総数20名中出席者13名にて、評議員会の成立を鈴木事務局長が報告。中曽根評議員会議長が挨拶し、引き続き、議事進行に入る。

〈協議事項〉

1. 第12期事業報告・収支決算

風間専務理事より事業報告について、室城財務委員長より収支決算について、細田監事より監査報告について、それぞれ資料に基づき説明があり、ともに原案通り承認された。（資料1及び本連盟WEBサイト<https://www.jaaf.or.jp/pdf/about/rikuren/disclosure/12report.pdf>）

その他、次期役員の選任の協議を行い、原案通り承認された。

評議員会

日時：2023年6月23日（金）

15時50分～16時

場所：JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階
日本陸上競技連盟会議室

【議事内容】

評議員総数19名中出席者15名にて、評議員会の成立を鈴木事務局長が報告。議長不在のため、引き続き、議事進行を鈴木事務局長が務める。

〈協議事項〉

1. 評議員会議長及び評議員会副議長の選任

評議員の互選により、評議員会議長には大田弘子評議員、評議員会副議長には竹内章評議員が選任された。

第84回理事会

日時：2023年6月26日（月）

13時31分～14時25分

場所：JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 3階
会議室8

【議事内容】

理事総数30名中出席者25名にて、理事会の成立を鈴木事務局長が報告。議長不在のため、引き続き、議事進行を鈴木事務局長が務める。

〈協議事項〉

1. 会長、副会長、専務理事、常務理事及び代表理事、 業務執行理事の選定

理事の互選により、会長には尾縣貢理事、副会長には有森裕子理事、風間明理事、室城信之理事、専務理事には田崎博道理事、常務理事には坂本修一理事、内山了治理事、清水真理事、來田享子理事、山崎一彦理事が選任された。

また、代表理事には尾縣理事、有森理事、業務執行理事には風間理事、室城理事、田崎理事、坂本理事、内山理事、清水理事、來田理事、山崎一彦理事が選任された。

2022年度登録者数について

表1 2022年度日本陸上競技連盟登録者数

	一般	高校	中学	大学	合計
北海道	2,887	3,724	5,207		11,818
青森	938	1,229	3,020		5,187
岩手	1,378	1,460	2,996		5,834
宮城	1,796	2,211	3,273		7,280
秋田	882	1,163	2,086		4,131
山形	1,167	1,349	1,902		4,418
福島	1,029	1,720	2,558		5,307
茨城	1,926	2,154	3,675		7,755
栃木	923	1,440	2,989		5,352
群馬	988	1,487	3,702		6,177
埼玉	2,807	5,237	12,287		20,331
千葉	3,043	4,939	12,010		19,992
東京	10,662	7,328	13,679		31,669
神奈川	4,431	5,037	14,721		24,189
山梨	1,070	872	1,138		3,080
新潟	1,820	2,210	6,208		10,238
富山	1,019	1,098	1,687		3,804
石川	1,029	1,079	1,641		3,749
福井	695	777	1,408		2,880
長野	1,750	1,460	3,213		6,423
静岡	2,822	3,696	7,124		13,642
愛知	4,293	6,425	9,971		20,689
岐阜	1,136	1,783	3,222		6,141
三重	1,016	1,844	3,599		6,459
滋賀	947	1,532	3,393		5,872
京都	1,838	2,163	4,673		8,674
大阪	4,827	5,477	13,487		23,791
兵庫	2,896	4,969	10,250		18,115
奈良	731	1,165	2,088		3,984
和歌山	618	717	1,717		3,052
鳥取	391	579	1,018		1,988
島根	848	692	1,592		3,132
岡山	1,554	1,450	2,962		5,966
広島	1,809	2,315	5,442		9,566
山口	1,311	1,419	2,008		4,738
徳島	806	519	1,298		2,623
香川	784	872	1,435		3,091
愛媛	1,236	1,156	1,822		4,214
高知	713	529	1,265		2,507
福岡	3,020	3,864	8,704		15,588
佐賀	807	950	1,554		3,311
長崎	889	1,710	2,393		4,992
熊本	1,325	1,434	2,899		5,658
大分	1,198	847	1,815		3,860
宮崎	1,185	912	1,858		3,955
鹿児島	1,901	1,275	2,043		5,219
沖縄	834	677	737		2,248
学連				18,917	18,917
在外	6				6
2021年度数	83,981	98,945	199,769	18,917	401,612
差異	81,094	102,978	201,191	18,565	403,828
	2,887	-4,033	-1,422	352	-2,216

2022年度の登録者数について表1に示した。登録者数の推移(表2)としては新型コロナウイルスの影響で2020年度は2018年度比で88.5%と大幅に減少したが、競技会の開催が再開された2021年度は93.9%となった。2022年度は2021年度より微減となった。内訳をみると、市民マラソン大会の再開に伴い、一般はコロナ前には及ばないものの回復傾向となっている。学連もコロナ前には及ばないものの回復傾向となっている。高校に関しては、2021年度でコロナ前(2018年度)の90%まで回復したが、再び86.5%と減少してしまった。中学に関しては2021年度でほぼほぼ回復し、2022年度は微減であった。

中学生、高校生の学年別数の推移を表3に示した。2018年度数と対比すると中学生に関しては各学年ともほぼ2018年度数に回復したことがわかる。高校生に関しては、2020年度は競技会の開催数が少なかったために、3年生が大幅に少なかった。2021年度は3年生が回復したものの、1年生は大幅に少なかった。2022年度は3学年とも2018年度比で90%を下回ってしまった。これは2022年度になり3学年でもコロナ以降の学年となり、そもそも1年時に加入しなかった、また中学の時も部活動をあまり経験できなかった世代だったからではないかと推測する。

高校生の登録者数は、コロナ前は半数が中学からの継続、半数が高校から新しく始める人という傾向であることがわかってきたが、今回そのどちらが減少したのか、あるいは等しく減少しているのかについては別途調査する必要があると思われる。

将来的にこの世代の現象が国際競技成績にどのような影響を与えるかについては注視する必要がある。

〈事務局から〉

2023年度から登録システムを新システムに変更いたしました。しかしながら、事前の広報不足や、システムの準備不足などで、使いづらい、ログインできないなど毎日たくさんのお問い合わせ、苦情をいただく結果になってしまいました。

大変申し訳ありませんでした。

緊急の改修は随時行っており、来年度に向けて改善の改修も行っていますので、引き続きご協力よろしくお願いします。

表2 人数推移2019-2022

年度	一般	学連	高校	中学	合計
2018	93,604	20,742	114,391	201,397	430,134
2019	94,364	20,296	111,691	198,929	425,280
2020	82,714	18,174	95,901	183,891	380,680
2021	81,094	18,565	102,978	201,191	403,828
2022	83,981	18,917	98,945	199,769	401,612
2020	88.4%	87.6%	83.8%	91.3%	88.5%
2021	86.6%	89.5%	90.0%	99.9%	93.9%
2022	89.7%	91.2%	86.5%	99.2%	93.4%

*割合は2018年度対比

表3 2019-2022学年別推移

年度	中学			高校		
	1	2	3	1	2	3
2018	68,444	67,264	65,689	42,057	37,403	34,421
2019	67,159	68,114	63,656	40,282	37,830	33,174
2020	65,331	64,866	53,694	35,996	35,805	23,583
2021	67,493	69,219	64,479	35,092	34,301	32,343
2022	66,359	67,795	65,615	35,299	32,217	30,282
2020	95.5%	96.4%	81.7%	85.6%	95.7%	68.5%
2021	98.6%	102.9%	98.2%	83.4%	91.7%	94.0%
2022	97.0%	100.8%	99.9%	83.9%	86.1%	88.0%

*割合は2018年度対比

「キッズデカスロンチャレンジ」実施報告

指導者養成委員会 普及ディレクター 岸 政智

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、思うように実施できなかったキッズデカスロンチャレンジであったが、今年度は、4月から6月までの間に、グランプリシリーズ（3大会）、セイコーゴールデングランプリ陸上2023横浜、日本選手権大会の5会場で実施することができた。

キッズデカスロンチャレンジは、WA（世界陸連）が子どもたちのフィジカルリテラシーの向上を目的として推奨しているプログラム「キッズアスレティックス」をベースにしている。また、指導者養成委員会では、陸上競技を経験したことのない子どもたちが、「走る」「跳ぶ」「投げる」というスポーツの原点に触れることを主眼に置いている。多くの種目を楽しく体験することができるように、キッズ（子ども）デカスロン（10種競技）チャレンジ（経験・体験）とした。実施場所としては、競技場内の芝生などでできると良いが、今回は各会場や競技日程等の事情から、安全面を配慮した上で競技場外での実施もあった。なお、競技場外で実施することにより、より多くの人々の目に触れ、興味をもって参加してもらうことができた。

天候や場所により変更はあったが、今回の基本プログラムとして「10mチャレンジ」「トリプルジャンプ」「ターゲットスロー」の3種目を実施した。10mチャレンジは、光電管を使用してタイム計測を行い、走った後は自身の記録が表示されたタイマーとともに記念撮影を行った。トリプルジャンプは、立ち幅跳びを連続して3回行い、その合計の距離を測定した。比較する記録は、走幅跳の日本記録とした。ターゲットスローでは、「的（まと）」となる幕に向かってジャベボールドを投げ、幕に描かれている点数（2点から100点）をゲットした。どの種目も子どもたちが「楽しい」と感じるよう、工夫をした。記録や得点を表示し、写真等に残すことにより思い出となり、スポーツとの関わりや子どもたちのチャレンジする気持ちが増える一翼となることを期待する。

WAでは5月7日を「World Kids' Athletics DAY」としている（2022年より）。そこで、会場では、記念撮影用のボードや、インスタグラム用のフォトフレームを用意し、写真を撮ったり、SNSに投稿するなど、「World Kids' Athletics DAY」と連携した試みも実施した。また、参加した子どもたちには、参加賞としてオリジナルの缶バッジをプレゼントした。

各会場での新たな試みもあった。木南記念陸上では、大阪市とのタイアップで事前予約制のイベントとした。サブグラウンドでの実施であったが、広い芝生を使用できたことで「ケンケン競争」や「ウレタンハードル走」など、独自のプログラムが提供できたことは収穫であった。セイコーゴールデングランプリでは、大会前に、地元、横浜市の学校に海外アスリートを招き、トークイベントや陸上教室

を行った。そこで本イベントの告知を行い、ウェブページ等でも参加の呼びかけを行った。当日はDJがマイクパフォーマンスをし、スペシャルゲストとしてトップアスリートたちも登場し、選手と子どもたちがチームを作って対抗戦を行うなど、イベントを盛り上げた。

キッズデカスロンチャレンジは、指導者養成委員会のスタッフ、各地域陸協の先生方、地元大学生や高校生の補助員が協力して運営を行った。音楽やマイクパフォーマンスで会場を盛り上げ、周囲に呼びかけを行ったり、レイアウトを工夫し保護者や引率者になるべく近くで安全に見学できるように配慮をした。また、陸上競技未経験者や未就学児の参加者も多く、スタッフは、運営や進行だけでなく、指導をする時間も作った。例えば、走るときは「腕を振ってみよう」、跳ぶときは「脚だけでなく、上半身も同時に動かしてみよう」、投げるときは「からだ全体で投げてみよう」など、言葉と合わせて実際に動作も見せて、説明をした。子どもたちは最初うまくいかなかったが、何回かやってみるとコツを覚えてできるようになり、楽しく、夢中になってチャレンジする姿が多数見受けられた。

WAでは、前述のイベント（Kids' Athletics）を全世界で展開している。日本では本委員会で実施しているが数多く実施することはできていない。今回、グランプリシリーズ（G1大会）でのキッズデカスロンチャレンジの実施により、地域陸協と共同で実施し、今後の各地域での独自開催も見えてきた。また、大会でのイベントに限らず、学校の授業等に取り入れることも考えていきたい。関係各所の知見を集めながら、このキッズデカスロンチャレンジをブラッシュアップし、より多くの子どもの子どもたちが楽しく体験できる場を作っていきたい。

最後に、本事業に関わっていただいた開催陸上競技協会の皆様、補助員の学生たち、また暑い中元気に参加してくれた子どもたちと引率された保護者の皆様の協力に感謝し、心から厚く御礼を申し上げ、報告とさせていただきます。

（実施会場と参加者数）

4月29日（土）	
第57回織田幹雄記念国際陸上競技大会	70人
5月3日（水）	
第38回静岡国際陸上競技大会	250人
5月6日（土）	
第10回木南道孝記念陸上競技大会	80人
5月21日（日）	
セイコーゴールデングランプリ陸上2023横浜	500人
6月3日（土）～4日（日）	
第107回日本陸上競技選手権大会	520人
※9月以降も主要な競技会で実施予定	



静岡国際陸上競技大会の様子



日本陸上競技選手権大会の様子

大会観戦ガイド

令和5年度全国高等学校総合体育大会 陸上競技大会 秩父宮賜杯第76回全国高等学校 陸上競技対校選手権大会

▼期日：

- (1) 開始式 令和5年8月2日(水) 8時30分～
- (2) 競技 令和5年8月2日(水)～6日(日) 5日間
- (3) 表彰式 令和5年8月6日(日) 競技終了後

▼会場：札幌市厚別公園競技場

〒004-0033 札幌市厚別区上野幌3条1丁目2番1号
TEL 011-894-1144

▼アクセス：

地下鉄東西線「大谷地」下車 5番出口 徒歩20分
中央バス〈大66〉〈大67〉「平岡9条3丁目」下車
徒歩5分

中央バス〈大92〉〈大94〉「厚別公園入口」下車
徒歩5分

▼競技種目：

(1) 男子

100m・200m・400m・800m・1500m・5000m・
110mハードル(1.067m)・400mハードル(0.914m)・
3000m障害物・5000m競歩・4×100mリレー・
4×400mリレー・走高跳・棒高跳・走幅跳・三段跳・
砲丸投(6.000kg)・円盤投(1.750kg)・
ハンマー投(6.000kg)・やり投(800g)・
八種競技(以上21種目)

(2) 女子

100m・200m・400m・800m・1500m・3000m・
100mハードル(0.838m)・400mハードル(0.762m)・
5000m競歩・4×100mリレー・4×400mリレー・



走高跳・棒高跳・走幅跳・三段跳・砲丸投(4.000kg)・
円盤投(1.000kg)・ハンマー投(4.000kg)・
やり投(600g)・七種競技(以上20種目)

▼問合せ先：令和5年度全国高等学校総合体育大会 札幌市実行委員会事務局 陸上競技担当

〒060-0002 札幌市中央区北2条西1丁目1番地7号
ORE札幌ビル8階

TEL：011-211-3970 FAX：011-211-3921

Mail：rikujo2023@soutai-sapporo.jp

▼大会ページ：

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1762/>

第58回全国高等学校定時制通信制 陸上競技大会

▼期日：2023年8月11日(金)～13日(日)

▼会場：駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場

▼アクセス：

〈電車をご利用の方〉

・東急田園都市線 駒沢大学駅 徒歩約15分～25分

〈公共バスをご利用の方〉

・東急バス「渋11」で駒沢公園東口または東京医療センター前下車 徒歩1分

・東急バス「渋82」で駒沢公園西口下車 徒歩約1分

▼大会ページ：

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1763/>

第50回全日本中学校陸上競技選手権大会

▼期日：2023年8月22日(火)～25日(金)

▼会場：愛媛県総合運動公園陸上競技場(ニンジニアスタジアム)

▼アクセス：◆伊予鉄バス〈こどもの城、とべ動物園営業時間内〉松山市駅バスターミナルより3番線「砥部線(えひめこどもの城行き)」ニンジニアスタジアム(陸上競技場)前下車

伊予鉄バス〈こどもの城、とべ動物園営業時間外〉松山市駅バスターミナルより3番線「森松・砥部線(森松、大岩橋、断層口行き)」総合運動公園口下車
ジェイアール四国バス JR松山駅より久万高原線 総合運動公園口下車

▼大会ページ：

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1765/>

事務局からのお知らせ

◆◆パリ2024オリンピック競技大会
マラソン日本代表選手選考競技会
マラソングランドチャンピオンシップ
ファイナルチャレンジ設定記録決定◆◆

この度、パリ2024オリンピック競技大会マラソン日本代表選考競技会として開催する「マラソングランドチャンピオンシップ(MGC) ファイナルチャレンジ」の設定記録が決まりましたのでお知らせいたします。

▼詳細はこちら

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/18367/>



▼MGC 特設サイトはこちら

<https://www.mgc42195.jp/>



◆◆迷惑撮影対策活動を日本選手権で実施！
～アスリートが安心して競技に取り組める
環境づくりを目指して～◆◆

日本陸連では、「アスリートが安心してスポーツに取り組める環境づくり」を目指し、さまざまな取り組みを進めております。アスリート委員会の皆さまにも協力いただき、日本選手権でいくつかの活動に取り組みました。

▼詳細はこちら

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/18043/?category=99>



陸連時報編集委員

◇編集委員

尾縣 貢 (陸連会長)
有森 裕子 (陸連副会長)
風間 明 (陸連副会長)
室城 信之 (陸連副会長)
田崎 博道 (陸連専務理事)
山崎 一彦 (陸連強化委員長)
鈴木 英穂 (陸連事務局長)
石井 亮 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

石井 朗生
◇時報編集担当
日本陸連 広報課

陸連時報編集室

〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階
日本陸上競技連盟内
TEL : 050-1746-8410
FAX : 050-3588-1869